

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4070700689
法人名	特定非営利活動法人グループホームやまびこ
事業所名	グループホーム やまびこ
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区町上津役東三丁目10番16号 (電話) 093-614-2910
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年9月17日

【情報提供票より】(平成20年9月1事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 11月 15日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/> 新築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	2,800~3,100 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	550 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 77 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦整形外科・内科クリニック・有松歯科医院・黒田クリニック・東薬病院
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山林を切り開いた静かな住宅街の一軒家である。民家を増改築し、住み慣れた家を思わせるようなホームである。理念の暖かい家族関係、安らげる家庭環境を目指してゆっくり、一緒に、楽しく過ごせるように支援されていることが利用者の落ち着いた穏やかな表情から読み取れる。運営者等の努力により地域住民のボランティアや協力が根付いており、道路に面したテラスにいて、近所の通りがかりの人が声をかけてきたりして、地域の中に溶け込んだ生活が営まれている。買い物、散歩、ドライブ、季節の花見、公民館での催し見学など楽しみごとと気晴らしの支援ができています。生活面でも役割が持てるような支援を行っており、利用者の安定した生活が維持されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題の地域密着型サービスとしての理念は全員で話し合い見直しを行っているところである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価の意義や目的を伝え、全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。町内会長、地域住民、家族、行政の職員が参加しホームの行事の実施状況、利用者の状況、職員の状況、外部評価の結果等の報告を行い意見をもらうようになっている。そこで出た意見は全体会議に反映させ改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	玄関にご意見箱を設置している。毎月職員が家族へ手紙を送付する際、意見カードを作り、一緒に同封して意見や苦情などを書いてもらうようになっている。また、運営推進会議や家族の方が訪問時にも問いかけている。不満や苦情は家族と相談、話し合いを行い、前向きに受け止めて全職員で改善に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の運動会、祭りに参加している。地域の方の家の庭の花見などに招待していただいたり、自家製の野菜など頂いたりすることがある。利用者が迷子になった時など近隣の方が連絡しあって探してくれたことがある。ホームへ利用者の話相手に来てくださる方や食事づくりに来られる方もおられ、近隣の人達と触れ合う機会は多い。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として暖かい家族関係、安らげる家庭環境を目指してゆっくり、一緒に、楽しく過ごせるように支援します、と掲げている。これは全職員で話し合い決めたものである。地域密着型サービスの視点を加えた理念の見直しを行ったが、明文化されていない。	○	運営方針に住み慣れた地域での生活を継続することが出来るよう地域住民との交流や地域活動への参加を図る、とあり、実際に開設以来地域との関係の中で運営されている。理念に地域密着型サービスとしての視点を加えた見直しを行い明文化することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝利用者と共に唱和している。全体会議などでも理念を再確認し、全職員で話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の運動会、祭りに参加している。地域の方の家の庭の花見などに招待していただいたり、自家製の野菜など頂いたりすることがある。利用者が迷子になった時など近隣の方が連絡しあって探してくれたことがある。ホームへ利用者の話相手に来てくださる方や食事づくりに来られる方もおられ、近隣の人達と触れ合う機会が多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んでいる。前回の改善課題の地域密着型サービスとしての理念については、グループホームの基本方針とともに全職員で話し合い見直しをしをしているところである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回町内会長、地域住民、家族、行政職員などが参加し、ホームの行事の実施状況、利用者の状況、職員の状況、外部評価の結果等の報告を行って意見をもらうようにしている。そこで出た意見は全職員が参加する会議に反映させ、改善に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治体及び他の研修の講師の依頼がある。市町村担当者が変わる時はホームへ見学に来られている。事業所の現状を伝え助言をもらっている。双方が関係づくりに積極的に取り組み、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ成年後見制度の利用者はいないが、制度に関するパンフレット等は揃えている。職員は外部の研修へ参加している。参加出来なかった職員には伝達研修や回覧板で、周知を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回担当職員が家族へ手紙を送付し、暮らしぶりなどを報告している。状態変化が見られる場合は電話で報告し、職員の異動については家族の方の訪問時に報告をしている。金銭管理は立替払いで対応を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。毎月職員が家族へ手紙を送付する際、意見カードを作り、一緒に同封して意見や苦情などを書いてもらうようにしている。また、運営推進会議や家族の方が訪問時にも問いかけている。不満や苦情は家族と相談、話し合いを行い、前向きに受け止めて全職員で改善に取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員が働きやすいように介護に対してやりがいや誇りが持てるよう助言をし、また、教える立場を養う中間職への指導などを行い、離職を最小限に抑えていくような努力をしている。職員が異動する場合でも全職員で利用者に関わっているのでダメージを最小限に抑えることができています。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。福祉に対して情熱を持っているかどうかを重視し面接を行い、体験勤務をしてもらっている。リフレッシュ休暇として3年勤務で3日連休、3年以上勤務で5日連休、他誕生日休暇などがあり、職員は休暇を取っている。社会参加や資格取得に向けて勤務調整などできている。	職員の採用にあたっては性別、年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。福祉に対して情熱を持っているかどうかを重視し面接を行い、体験勤務をしてもらっている。リフレッシュ休暇として3年勤務で3日連休、3年以上勤務で5日連休、他誕生日休暇などがあり、職員は休暇を取っている。社会参加や資格取得に向けて勤務調整などできている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は人権に関する研修に参加しており、職員へは伝達研修を行い周知している。毎月のミーティングで利用者の尊厳について話を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を2グループに分け、職員研修旅行をしている。その中で方針・ケアの話など5時間研修をしている。新人職員は採用時に新人研修を行っている。また職員は実践の習熟度等に応じてその人に合った研修への参加を行っている。研修参加者はミーティング等において報告をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入しており、協議会の研修に参加し交流をしている。職員同士で情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内のデイサービス利用からグループホーム利用になる方がほとんどで、デイサービス利用時にグループホームに遊びに来たりしており、入居の時点では既に職員とは馴染みの関係ができています。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>買い物、料理の味見や盛り付け、掃除などを一緒に行う中で、利用者の得意分野で活躍してもらっている。利用者から日常生活の知恵をもらうこともあり、一緒に過ごすことによって支えあう関係づくりができています。</p>		
<p>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりや雑談の中で利用者の思いや希望を把握している。意思疎通の困難な方には、行動・表情・前後の状況などから洞察したり、家族と話したりして把握している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者制にしており、担当者が介護計画原案を作成し、全職員のミーティングで検討して作成している。その人の情報収集においては職員、家族から得て、センター方式の一部ならびに独自に作った様式を使って課題を見出し、介護計画に繋げている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月ミーティングを持ち、全職員で一人ひとりの介護計画と現状の把握を行い、見直しをしている。そのミーティングに家族が参加したこともある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。耳鼻科のみグループホームが送迎・受診の支援をしている。誕生日に誕生会をするが、自宅であることを希望される方は、自宅でできるように支援している。その他、利用者個々人の希望を取り入れ墓参りや県外まで懐かしい物を食べに行くなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・外科・歯科・皮膚科に関しては2週間に1回往診があり、家族の希望によって在宅時のかかりつけ医をグループホームの協力医に変更している。受診の結果は家族に報告しており、家族が安心できるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合やターミナルケアに関して本人や家族にグループホームで対応できることについて説明している。重度化した場合は、家族や医療関係者、全職員との話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーの保護を念頭においている。特に排泄時の衣類交換は、人目につかないようにケアをしている。記録等の個人情報は所定の場所に管理保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、起きるのが遅かった利用者には起きた時に朝食を提供したり、夜他の人が寝静まった所に起きてくるひとりの利用者にはいつもお茶を用意したり、利用者が欲しいもの、買いたいものを言えば買い物に出かけたりしている。その日、その時の利用者の気持ちや思いを尊重し、体調にも配慮しながら対応をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2週間に1回、市場から仕入れた魚を刺身に調理した時は、お酒が飲める日として、食事を楽しみにしている。調理の下ごしらえや盛り付け、洗い物など一緒にしている。また職員と同じものを一緒に食べて楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週3回であるが、希望によっては毎日可能である。時間も朝から夕方までであればいつでも入れるようにしている。入浴を拒む利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各居室についでいる箒で掃除、食事作りの下準備(米とぎ、皮むき等)や盛り付け、買い物、ドライブ、季節の花見、公民館での催し見学など、外の空気を吸い、気晴らしができるようにしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブなど日常的にしている。雨ふりでの生活をあたり前のこととして、雨が降って避けて出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。一人で出ていかれることもあるが、あとからついていく。また、地域とのネットワークができており、その工夫も常にしているため、相当時間を掛けることなく見つかっている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1回は消防署に来てもらい、年2回消防訓練を行っている。訓練時、地域の人の参加もあり、2次災害が起きないように一時避難場所から二次避難場所への誘導という役割を担ってもらっている。夜間訓練想定の実演もしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を記録簿に記載し、職員はそれを共有してケアにあたっている。特に食事の摂取量や水分摂取量の把握が必要な時は、別の用紙に詳細に記録して対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家に居室部分を増築しており、居間兼食堂は民家のままで落ち着いた雰囲気がある。増築した居室前の廊下は、不要になった障子の棧やふすまの欄を利用者とともに工夫して配置したり、子供の着物を壁に飾ったり、手作りの装飾品をとりつけたり、季節感とともに昔を偲ぶ落ち着いた場所づくりをしている。さまざまな花の植木鉢や椅子を複数用意した広いテラスでは、樹木や往來の人たちを眺めたり、時には会話をしたり、居心地良く過ごせるような工夫がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>筆筒や椅子、装飾品、家族の写真などが持ち込まれたり、筆筒がその人の好みの場所につるしてあったりと、その人の居室となっている。居室窓が低い位置にあり危険であることから、不要になった格子戸を分けてもらってとりつけているが、それが居室の雰囲気を落ち着かせている。そこに利用者がちよつとした洗濯物をかけることもあり、利用者が居心地良く安心した生活ができるよう工夫している。</p>		